

大学等名：追手門学院大学

テーマ：テーマⅢ（入試改革）

大学で学ぶ意味を考え、学ぶ意欲と姿勢を持った受験生に入学を許可することを目的とし、受験前から「学ぶことについて考える」及び「アイデンティティの形成」の機会となるアサーティブプログラムと、その成果を発揮できるアサーティブ入試を開発。

アサーティブとは

本学では、相手の意見に耳を傾けながら、自分の意見や考えを主張することができる態度、自分を知り表現することが大切になるという意味で使っています。

背景

大学全入時代

入試方法の多様化等により入学者の在り方も変容しており、学習意欲の低下や目的意識の希薄化などが顕著
(中央教育審議会 学士課程教育の構築に向けて 平成20年12月24日)

文教政策

大学入学者選抜は、本来、高等学校教育を基盤として、各大学のアドミッションポリシーの下、能力・意欲・適性を見極め、大学での教育に円滑につなげていくことを求める
(教育再生実行会議 第四次提言 平成25年10月31日)

事業による効果（期待する入学予定者像）

シラバスの活用ができる

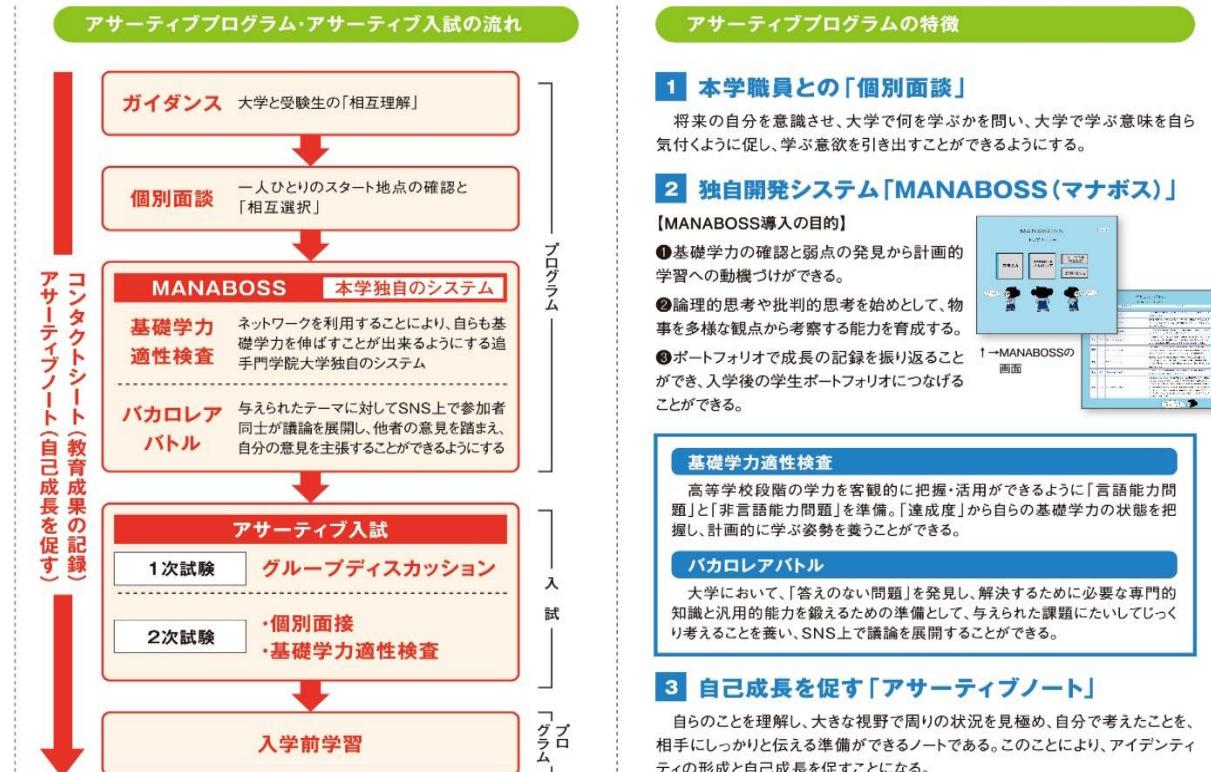
講義への参加意欲の向上

各種活動への積極的な参加

などができる新入生の増加

【事業の成果】

	26年度	28年度 (目標値)	30年度 (目標値)
アサーティブガイダンス参加者数	300人	900人	1,250人
アサーティブ入試入学者の割合	3.9%	23.7%	32.9%
アサーティブ面談担当職員の割合	26%	61%	82%



・主体的に学ぶ姿勢とアサーティブな態度を身に付けた入学者が増えることにより、本学の教育目標である「生きる力」「学ぶ力」「考える力」を備えた人材養成（「追大学士力」）を実現できる道になる。

・職員が関わることにより、学生実態を的確に把握し、教育改革への具体的な政策提起ができる力量と、個々の学生に対する教育支援ができる力を育成することで、教職協働による教育が実現可能となる。